

令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人こうのさと

1. 令和5年度事業の概要

令和5年度は新事業として、倉敷市玉島陶にて自然の中で生きる力を育むオルタナティブスクール竹林のスコレーの運営を開始し、主な活動拠点を倉敷市西坂から玉島に移すこととなった。オルタナティブスクールの運営に注力し、その他の事業に人手と時間が割けず周知が及ばなかった面がある。だが、岡山県備中県民局提案型協働事業として採択された竹灯籠祭りの開催、耕作放棄地を田畑に復元し米や野菜の収穫を行えるようになり充実した一年にすることができた。そして、3月に耕作放棄地を開墾して、子どもたちが自然の中で遊び学べるスコレーパーク建設のためのクラウドファンディングを実施し、4月30日に終了。332名の方から5,336,000円のご支援をいただくことができた。

経営面では、竹林のスコレー開校と共にスタッフの雇用が始まり使用する費用が大きくなり収益化が大きな課題となった。年度末の時点でオルタナティブスクール事業での損益分岐点をまだ超えられてはいない。資金繰りの改善、広報・マーケティングとボランティア管理に注力していくため令和6年3月に日本政策金融公庫から事業融資300万円を受け、部門スタッフの雇用も進めていく。竹林のスコレーの利用者は少しずつ増えており東京から新倉敷に移住し、令和6年度に入学された児童とそこご家庭がある。引き続き周知を広げて利用者を増やし令和6年度2学期中に損益分岐点を超えるようにしていく。

今年度は、岡山県備中県民局提案型協働事業の助成を受けた竹灯籠祭りを実施。令和6年度も助成事業として竹灯籠まつりを実施予定であり、また他財団からの助成が採択され令和6年度の活動の幅が拡がりそうである。青少年の活動場所を拡張するための古民家修繕費用を橋本財団から、耕作放棄地を開墾した後に、催し物を開催できる竹のステージを建築し周知を図る活動に福武教育文化振興財団の助成採択を受けることができた。

NPO法人としての経営基盤も自主事業、助成事業、寄付・クラウドファンディングと1つの財源に頼らない多角的な基盤を作れつつあるのは、大きな前進である。

最後に、現代の社会環境の中で、公教育とは別の受け皿として子どもたちが利用するオルタナティブスクールは、高いニーズと社会的関心の高さも窺え、地域コミュニティの中心軸になり得るものだと実感している。未来そのものである子どもたち、それに関わる人たちみんな、NPO法人こうのさとの理念を共有し、団体発足の目的である安心安全な食品の生産と流通を促し豊かなコミュニティを築き、生まれてくる子どもたちみんなが祝福されるまち、子どもの楽園を目指し活動に取り組んでいく。

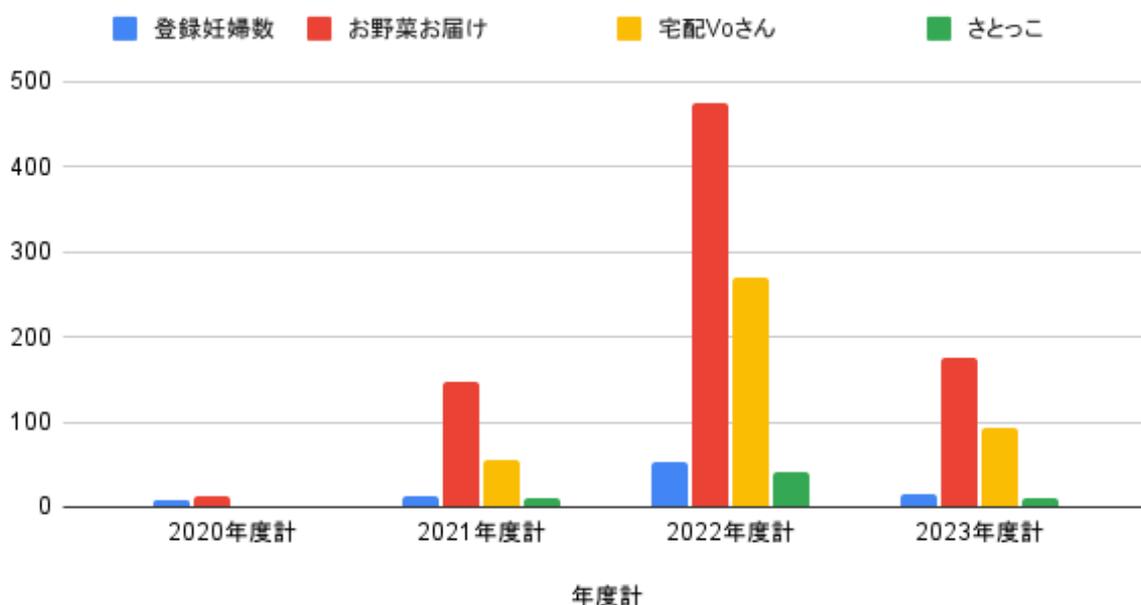
2. 事業の成果

2-1. 妊娠、子育て中の孤立を防ぎ、健康を増進するために行う妊産婦・乳幼児への無農薬無化学肥料作物の提供事業

竹林のスコレー開校に伴い、活動拠点を玉島陶に移すことになり、倉敷市西岡、西坂で行なっていた畑での農薬化学肥料不使用での作物の栽培を行える時間が減り、サツマイモ、里芋の収穫のみとなった。令和5年度末で西岡の農地の賃貸借契約を解消し、貸借以前の状態に復帰し返却した。

妊産婦への定期的な野菜の提供に関して、竹林のスコレーの運営、管理面に注力することになり、野菜の収穫がほとんど行えなくなり周知が滞り、提供件数が減ることになった。野菜は理念を共有しているそが自然農園から仕入れて妊産婦さんへ提供することができている。令和5年度は16名の妊婦さんに、延べ175回（うちボランティアさんの宅配92回）、およそ1,000円分のお野菜の提供を実施することができた。お野菜プレゼントを受け取った妊婦さんから生まれた赤ちゃん（さとっこと呼称している）は10名であった。2020年10月の活動開始から合計すると、808件のお野菜プレゼント（うちボランティアさんの宅配418件）、生まれたさとっこは60名となった。

妊産婦お野菜プレゼント事業グラフ



2-2. 環境負荷の少ない持続可能な農業の推進、および、安心安全な食品の流通支援事業

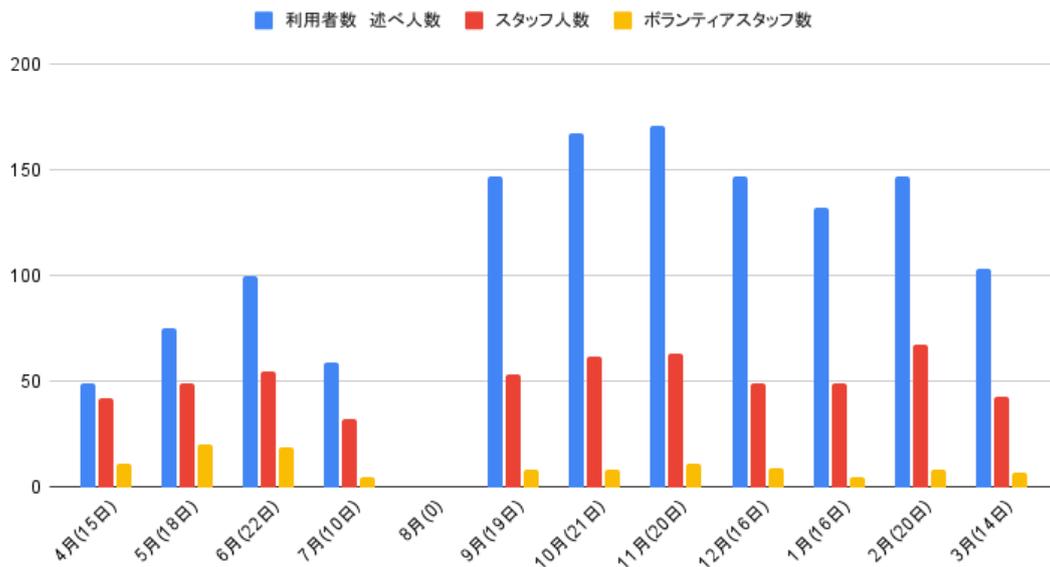
上記事業として、地域で心を込めて作物や食品を作られている方と消費者のマッチングを目的としたマルシェや、安心基準を設けた「さとっこ安心マーク」による流通支援事業を検討していたが、未実施となった。

2-3. 子育て中の父母が朗らかに交流でき、子どもが自然の中で遊び学べる場づくり事業

(1) 竹林のスコレー 自然の中で生きる力を育むオルタナティブスクール事業

令和5年10月の文科省発表の統計によれば、不登校児童生徒数は29万9千人を超えており、社会的な喫緊の課題として認識されつつある。その中で、岡山県倉敷市内では初となる平日の日中に常時開校しているオルタナティブスクールを設立できたことは大きな成果と言える。開校時は3名だった利用児童も年度末で15名になり、そのニーズの高まりも実感することができた。年間通じて述べ1,297人の児童の利用、延べ111人のボランティアの参加があった。

図1: 竹林のスコレー利用者、スタッフ、ボランティア参加者数のグラフ



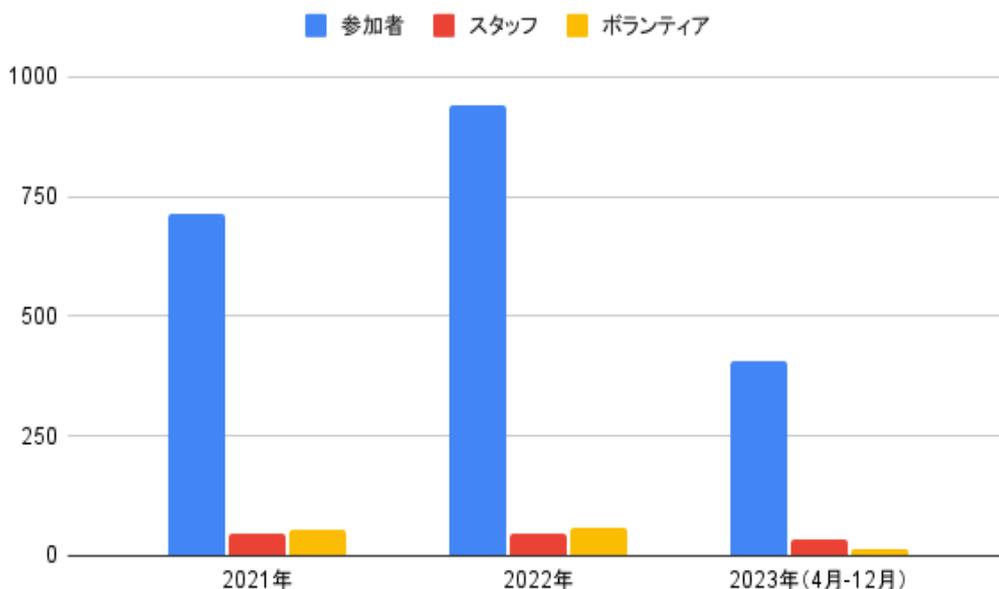
また、竹林のスコレーのフィールドとして借りた耕作放棄地を田んぼと畑に開墾し、それぞれお米の収穫、野菜の収穫を行えるようになった。令和6年度はさらに活動のフィールドを増やし環境の美化を目的とし、竹林のスコレー西側にある耕作放棄地を開墾して、子どもたちが自然の中で動物とも触れ合え、遊び学べるスコレーパーク建設を目指す。その予算を確保するためのクラウドファンディングは、4月30日に終了。332名の方から5,336,000円のご支援をいただくことができた。

2-3. 子育て中の父母が朗らかに交流でき、子どもが自然の中で遊び学べる場づくり事業

(2) こうのさとマルシェ

石原農園との共催で月1回の頻度で開催している古民家を活用したこうのさとマルシェは、令和5年4月から12月まで毎月開催し来場者433名（大人238名、子ども195名）ボランティア12名、出店者数68人の参加があった。竹林のスコレーの運営、竹灯籠祭りに関連する行事もあり、こうのさとマルシェの周知ができなくなったこと、令和5年度に入りコロナでの行動制限が減り、他のマルシェやイベントが増えたこともあり来場者が減少した。主催をしていた石原農園の担当者の都合もあり、2023年12月でマルシェは中止することになり、2月から運営主体が変わり再開することになった。NPO法人こうのさとは、協力団体として参加していく。

こうのさとマルシェ来場者数(参加者、スタッフ、ボランティア)



2-4. 食と体、自然と人のつながりを理解し、健康な社会の実現を目的とする教育事業

小児科医の木林京子先生と開催している「食と体、自然と人のつながりを理解し、健康な社会の実現を目的とする教育事業」も3年目となり、通年の講座、全4回を開催し、延べ66名の方（うち法人1社）にご参加いただきました。

2-5. その他の事業. 竹林のスコレー竹灯籠まつりの開催 岡山県備中県民局提案型協働事業

岡山県備中県民局提案型協働事業として、放置竹林の整備と地域の魅力向上を兼ねて11月に竹灯籠まつりを開催した。玉島陶・服部まちづくり協議会、玉島消防団穂井田分団、11月11日（土）、12日（日）の2日間で910名の来場者、出店者、スタッフを合わせて1,020名の動員を得た。

竹灯籠まつり	1日目	2日目	合計
来場者数	538(子ども 94)	372 (子ども 75)	910
スタッフ	6	7	13
ボランティア	23	14	37
まちづくり協議会	4	9	13
消防団	12	12	24
出店者	10(6 店舗)	13 (7 店舗)	23
合計人数	593	427	1020

また、竹灯籠づくり、竹炭づくりワークショップも開催、合計119名の参加者、36名のボランティアの参加があった。

竹灯籠づくりワークショップ、竹炭づくりワークショップ集計表								
回数	開催内容	日にち	子ども	大人	付き添い大人	お客さん合計	ボランティア	スタッフ・講師
1	竹灯籠づくりWS 1回目	6月11日	11	2	9	22	10	6
2	竹灯籠づくりWS 2回目	7月16日	11	3	4	18	7	6
3	竹灯籠づくりWS 3回目	8月11日	14	2	4	20	10	6
4	竹灯籠づくりWS 4回目	9月17日	8	1	2	11	5	5
5	竹灯籠づくりWS (玉島朝市)	10月8日	14	4	14	18	0	2
6	竹灯籠づくりWS 5回目	10月15日	12	5	2	19	3	6
7	竹灯籠づくりWS (うえまつフリースクール)	10月27日	7	0	0	7		2
8	竹炭づくりWS	1月25日	12	3	1	4	1	4
合計			89	20	36	119	36	37

田舎の真っ暗な夜に竹灯籠のやわらかい灯りが映え幻想的な情景が来場者から好評を得ることができた。それに伴い、竹林のスコレー周辺の300m²の放置竹林を間伐し、竹害の予防を行い景観の美化に貢献できた。運営の改善点として、駐車場として利用した増原公園からのアクセス（バスの便数や待ち時間）、竹灯籠展示順路の安全面の観点から照明の設置や誘導人員の不足、出店店舗の不足などが来場者アンケートから得ることができた。令和6年度開催に活かしていく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. 妊娠、子育て中の孤立を防ぎ、健康を増進するために行う妊産婦・乳幼児への無農薬・無化学肥料作物の提供事業	妊産婦へ農薬・化学肥料不使用作物を栽培、収穫し提供する。もしくは理念や栽培方法を共有する農家より仕入れた作物を提供する。	野菜提供：登録妊婦さんへ産後4回まで2週間に一度の頻度で提供する	野菜提供：倉敷市とその周辺地域	野菜提供：スタッフ3名、提供農家1名、Vo8名 (Voのべ92人)	16名の妊婦さんへのべ175回提供することができた。	701
2. 環境負荷の少ない持続可能な農業の推進、および、安心安全な食品の流通支援事業	地域で心を込めて作物や食品を作られている方と消費者のマッチングを目的としたマルシェを開催する。	未実施	未実施	未実施	未実施	0
3. 子育て中の父母が朗らかに交流でき、子どもが自然の中で遊び学べる場づくり事業	古民家、農園など自然環境が保存されている場所を子どもが遊ぶ場所として提供し、父母の交流を深める機会とする。 竹林のスコレー、自然の中で生きる力を育むをモットーとしたオルタナティブスクール事業	2023年4月から12月まで毎月第一日曜日に実施。 2023年4月から2024年3月まで平日開校、土日祝にイベントもあり。令和5年度は192日間開校	倉敷市西坂683 倉敷市玉島陶2970	スタッフ3名、Vo12名、出店者数68人。 メインスタッフ5名(延べ309人) サポートスタッフ8名(延べ255人) Vo2名(延べ111人)	来場者433人(大人238名、子ども195名)。 利用児童15名(延べ1297人)	0 10,419
4. 食と体、自然と人のつながりを理解し、健康な社会の実現を目的とする教育事業	人の健康と食べ物とのつながり、病気の予防、健康増進を目的とした講座や講演会、ワークショップを開催する。	健康講座年4回開催(5/26、8/18、11/17、2/16)	倉敷市玉島道口5392および動画にて提供	スタッフ4名(延べ16人)、講師1名(延べ4人)	参加者延べ66人、法人1社	188

5. その他目的達成に必要な事業	倉敷穂井田竹灯籠まつり、荒れた竹林を間伐し、竹害を予防、伐採した竹を資材として祭りを開催し地域活性化、魅力の向上を行う	11月11日 (土)、12日 (日)	倉敷市玉島陶2970周辺	スタッフ13人、Vo37人、まちづくり協議会13人、玉島消防団穂井田分団24人、出店者23人 (全て述べ人数)	来場者述べ910人(大741人、子ども169人)	3,004
	竹灯籠づくり、竹炭づくりワークショップ	6/11、7/16、8/11、9/17、10/8、10/15、10/27、1/25	倉敷市玉島陶2970、玉島朝市、岡山市南区植松312-6など	スタッフ延べ37人、Vo延べ36人の参加	延べ119名の参加者(大人20人、子ども89人)	

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. 物品製造、販売事業	予定なし	—	—	—	—	0
2. 加工食品の製造、販売事業	予定なし	—	—	—	—	0
3. 上記事業に関わる教育コンテンツの制作	予定なし	—	—	—	—	0

